



特集

男女協働参画の視点から考える『防災のまちづくり』

● 問合先 企画政策課男女協働推進係 (☎☎2115)



大庭 きみ子 さん

プロフィール

朝倉市議会議員

朝倉災害母子支援センター『きずな』事務局長

◇九州北部豪雨で母子や女性に特化した支援の必要性を感じ、被災した母子が心を落ち着ける避難所とするため、大庭さんが発案し、元保育士や助産婦で、朝倉災害母子支援センター『きずな』を開設。

『きずな』は、休業中の産科婦人科診療所を利用し、9部屋を提供した。シャワーや台所、洗濯機は共用で使え、スタッフ2～3人が常駐。また、育児の悩みや生活再建に向けた手続きの相談なども行った。

災害は、いつ、どこで発生するか分かりません。今年も県内では豪雨災害、日本各地でもさまざまな災害が発生しており、いざというときのための備えが重要です。また、避難所では、女性や子ども、高齢者など災害弱者への配慮も必要になります。

10月5日に開催した男女協働参画フォーラムにおいて、平成29年の九州北部豪雨災害で、被災母子と女性の避難所として朝倉災害母子支援センター『きずな』を開設した大庭きみ子さんが、『きずな』の取り組みについて講演しました。

今回の特集では、この講演や大庭さんとの対談を通して、災害に備えるために必要なことを、男女協働参画の視点から考えます。

母子や高齢者などの立場から避難所を考えてみよう

近年、本市では避難生活が長引くような大きな災害は発生していませんが、いつ発生してもおかしくありません。避難所ではどういった対応が必要になるのか、事前にどんな準備をしておけばいいのかなど、運営する側も、利用する側も、考えておくことがたくさんあります。

市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』のメンバーが、大庭きみ子さんと対談しました。

対談の参加者

- 大庭 きみ子 さん
・朝倉市議会議員
・朝倉災害母子支援センター『きずな』事務局長
- 川原 フジエ さん
・市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』会長
- 水島 義彦 さん
・市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』副会長
- 古川 由紀 さん
・市男女協働参画懇話会『いまりプラザ』副会長
- 松本 公貴 さん
・市政策経営部企画政策課長

母子ルームが必要

● 川原 母子などの災害弱者や男女協働参画の視点から、避難所での対応で早急に必要なのはどのような事でしょうか。

● 大庭 母子ルームが必要で、授乳室、男女別の更衣室、男女別の物干し場、女性専用の部屋、保健室などが早急に必要だと思います。部屋には張り紙をして、どんな人が使っている部屋なのか、分かるようにすることが大事です。また、朝倉では女性トイレと男性トイレを同数にしていましたが、どうしても女性の方が時間がかかるので、女性用を増やしてほし

いと要望がありました。それから、介護が必要な人やLGBTの人が利用しやすい多目的トイレも設置しましたが、これも必要ですね。

● 川原 絶対必要ですね。男

● 大庭 生理用品や、男女問わず尿取パッドが、すごく必要性がありました。トイレに置いておくと、皆さん必要のときに持って行っていました。大人用のオムツが欲しいという要望も強かったです。高齢者はトイレが間に合わないことがありますから。

● 水島 たとえば女性の生理用品も、女性の係が対応するよりもトイレに置いて自由に取れるようにしていた

方が良いですね。

● 大庭 そのほうが気兼ねなく使えるそうですね。朝倉ではアンケート箱をトイレなどに置いて、言いにくい要望などを書いてもらい、どのような事で困っているのかを把握していました。

● 川原 それは良いですね。

性被害を抑制する

● 大庭 それから熊本地震の時もそうですが、避難所では性被害が起きやすいので、『困ったら相談してください』の張り紙を、避難所だけでなくコンビニなどにも貼ってもらいました。張り紙をすることで性被害を抑制するという意識も高まっています。

● 川原 朝倉災害母子支援センター『きずな』をいち早く立ち上げられましたが、難しいところや、どういふうに備えればいいのかなど、お聞きしたいのですが。

● 大庭 事前に、母子支援施設になりそうな場所を探しておくことです。コミュニティセンターや女性センター、学校とか。それと協定書を事前に結んでおかないとスムーズにはいかないです。それからスタッフを集めるのが大変です。ファミリーサポートセンターなどの保育ボランティアに、事前に協力依頼をして協議しておいた方が良いと思います。『きずな』では対象者が女性なので、すべて女性のスタッフにしました。

夜も女性2人態勢で4交代にしました。最終的には延60人に関わっていただきました。

● 水島 事前にスタッフを確保していても、お願いしていた人が被災されていれば難しいですね。

● 大庭 ファミリーサポートセンターなどがあるのでしたら、センター長などのリーダーに連絡調整をしてもらうとか、核になる人がある程度お願いしておくとうまいと思います。

コミュニティカとネットワークが大事

● 川原 母子などの災害弱者や女性が災害に備えるために、地域や家庭ですべきことはありますか。



●大庭 協力体制は作っておかなければいけないなど思っています。ネットワークが、すごく大事です。特に女性のネットワークが力になりますね。今やっておられる男女協働参画懇話会『いまりプラザ』も力になると思います。また、お祭りや防災訓練などで地域の人と交流を深めておくことで、障害がある人や外国人がいるとか、高齢者がいるなどの把握ができます。

●川原 伊万里では地域のお祭りが年々廃止になってきています。

●大庭 コミュニティ力が薄れてきているので、こういう災害が起こったときに大変な状況になってきていると思います。朝倉はけっこう田舎でコミュニティがしっかりしている地域なので、支え合おうという気持ちがありました。都会で地震などがあつたら混乱すると思います。ネットワー

家族会議は大事

クとかコミュニティを見直さなければいけません。

●川原 それと家族で話を、しっかりしておくことですよね。もしもの時には、どこに逃げるとか、連絡はどうするとか。

●大庭 家に帰れない場合もあります。避難する場所も家族で決めておけば、そこに集まれば会えるわけだから、家族会議は大事だと思います。一人暮らしの人は隣近所に声をかけたり話をしたりして、避難場所はどこかなどの確認はしておいた方がいいと思います。

●川原 行政の立場からは、災害に備えるために地域でやるべきことは何でしょうか。

●松本 きちんと行政区なり地区で避難訓練をやることにより、地域の情報を地域の皆さんで把握しておくことが大事だと思います。私は、東日本大震災のときに気仙沼の避難所で支援に当たりましたが、そこでは避難所が地区ごとに分けてありました。元のコミュニティのつながりを大切に

て、例えばお弁当を運ぶときなども、地区の人が持つて行った方が安心感があるのかなと思いました。

●大庭 地域ごとに集まっていれば、地区の会長さんやお世話をする人などが分かっているのいいですね。知らない人の集まりだと、新たに人間関係を築かなければいけませんので。

母子の支援が一番大事

●古川 講演で「母子の支援が一番大事なのだ」と、おっしゃったことが印象に残りました。市民の共通認識として、お母さんたちを助けることを優先できるようにしなければと思いました。

●大庭 『さずな』を視察した人には、「母子の支援が一番大事なのだ」と力説しています。お母さんと子どものケアをしないと家庭が崩壊します。お母さんが倒れたら子どもがかわいそうですし、本当に家庭の中が悲惨になります。普段は男女共同参画の意識があっても、災害になると後退し、育児や家事など女がするのが当

たり前になってしまふ。だから日頃から「母子の支援が一番大事なのだ」と言い続けていなければいけないと思っています。

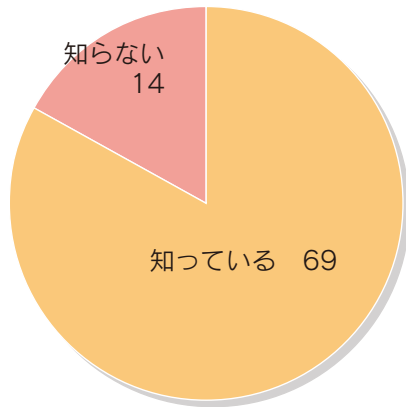
●水島 災害が発生したら「こういうことをしなければ」という情報は、たくさん持っているのですが、実際、そういう立場に置かれたときに、実践できるの不安があります。

●大庭 臨機応変に対応しなければいけないことがいっぱいありますので、たくさん情報を持っていれば、「こうすればいい」とか「これが足りないのでは」などとヒントが出てくると思います。災害の種類によって支援の手段も違ってきます。たくさん知っておくに越したことはないので、頭のポケットに入れておいてください。

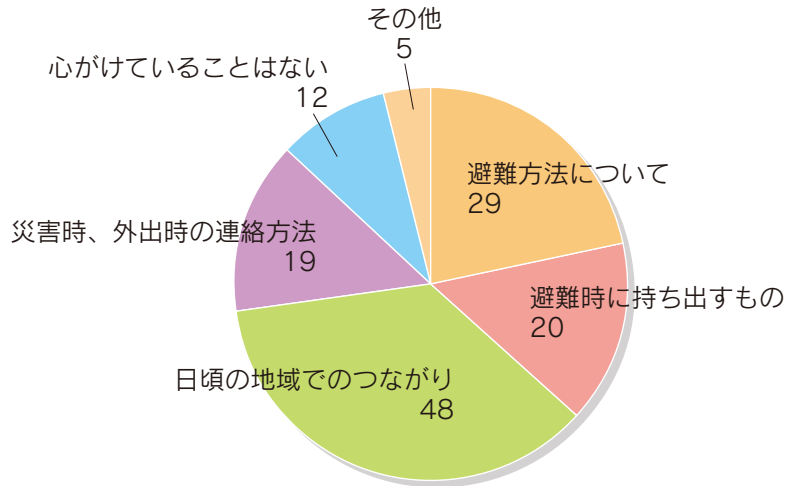
●川原 今日は、本当にありがとうございました。

講演後のアンケートより

Q. 地域の指定避難所を知っていますか？



Q. 防災について、日頃から心がけていることはありますか？



感想（抜粋）

- ・大きな災害のときに、防災の知識やボランティアの指導力の差によって、避難所運営がスムーズにいくということが分かった。
- ・高齢者、子ども、女性、障害者などの立場で『もしも』に備える必要性を感じた。
- ・避難所では、女性や子どもに対する配慮が必要なが分かった。
- ・災害が多くなり、知識や準備が必要で、自分にできることは何かを考える良い機会になった。

フォーラム参加者：107人 アンケート回答者：83人

男女協働参画の視点での避難所運営に必要なこと

災害弱者（女性、母子、高齢者など）が避難所で直面する困りごとは…

困りごと

- 女性用品（女性用下着、生理用品）が届いても、男性が配布していたため、もらいにくい。
- 避難所に授乳や着替えの場所、女性用の物干し場がなく、プライバシーが確保されない。
- 避難所のリーダーに女性がいないため、女性が必要とする物資の要望が出しにくい。

改善策

- 女性用品の配布方法の工夫
被災者の女性が気がねなく女性用品を手に入れることができるように、女性トイレの洗い場や個室の中に常備した。
(熊本市、朝倉市)
- 性暴力DV防止啓発活動
発災の翌日から、混乱に乗じた性被害を未然に防ぐため、啓発ポスター・チラシを作成し、避難所、近隣に掲示のうえ注意喚起を促した。
(熊本市、朝倉市)
- 女性による自主運営の避難所
女性リーダーを中心に、自主運営が行われていた避難所。
(朝倉市、益城町)
昼間は間仕切り用のカーテンは開かれており、風通しが良く明るい雰囲気だった。(益城町)

避難所へ行く前に

持参してほしい、お薬手帳

災害時には、かかりつけの病院・薬局が被災するなどして医療を受けることができない可能性があります。そんなとき、お薬手帳を持っていると次のような利点があります。

- 薬の使用歴が分かるので、診察・調剤などの医療を円滑に受けられます。
- 意識がない場合、本人に代わり救急隊員や医師に必要な情報を伝えられます。
- 薬の重複、飲み合わせによる副作用のリスクが軽減できます。
- 治療中の病気か推測できるので、特定の疾患に使えない薬を回避できます。

特にお薬手帳が必要な人

- ・アレルギー体質の人
- ・糖尿病や緑内障、下部尿路疾患、脳血管障害、心疾患など慢性疾患を抱えている人
- ・複数の薬を服用している人

お薬手帳に自分で記載してもらいたい事項

- ・緊急連絡先、住所、氏名、生年月日、血液型、既往歴
- ・食べ物アレルギー、副作用が出たことがある薬
- ・使用中の市販薬、サプリメント



リュックの中に、あなたの生活に欠かせないものをプラス

避難時に防災グッズや水を詰めたリュックの中に、かさばらない、あなたの生活の欠かせないものをプラスして！

- スマートフォンの充電バッテリー
- マスク（すっぴん対策、避難所周辺の土ほこり対策）
- いつも食べているおやつ（チョコレート、キャンディ、小袋に小分けされたスナック菓子など）



子育て世代の防災 ～避難所でのひと工夫～

☆レジ袋を、簡易オムツに

